

オレンジ不足で世界の果汁供給が減少する可能性

FreshPlaza 2023年11月28日

世界のオレンジ果汁供給量は、ブラジルと米国で減少している。主要消費国(米国、EU)の消費も減少しているが、需要に比べて供給の減少の方が著しく、世界的な供給が懸念される。

サンパウロ州(ブラジル)とフロリダ州(米国)の両方で、1995/96年度のピーク以降、生産量が減少し始めた。サンパウロ州とミナスジェライス州の三角地帯では、出荷量の減少は面積の減少よりも穏やかであった。一方、フロリダ州では、カンキツグリーンング病と年によってはハリケーンや霜などの天候問題により、生産量が大幅に減少した。

2023/24年度の収穫量については柑橘類保護基金(Fundecitrus)が9月に、サンパウロ州と三角地帯を合わせた柑橘類ベルト地帯で、前シーズンと比較して1.5%減の3億934万箱(40.8キロ/箱)のオレンジが収穫される見込みであると発表した。これは2022/23年度に確認された収穫量と非常に近いが、関係者らはカンキツグリーンング病の発生率が高いことを懸念しており(同基金は、この地域の柑橘類の果樹の38.06%に病気の症状が出ているとしている)、大きな影響の1つは落果率の高さである。

さらに、柑橘類ベルト地帯全体の推定収穫量は過去10年の平均程度であるが、サンパウロ州の果汁業界からの原料ニーズは非常に高い。オレンジ果汁の在庫が減っており、在庫を増やすには原材料が十分でないかも知れない。その結果、ブラジルの出荷が堅調であるにもかかわらず、2023/24年度末(2024年6月)にはオレンジ果汁の在庫量がさらに減少する可能性があるため、世界的な供給シナリオが懸念されている。

フロリダ州では、オレンジの出荷量はもう1年少ないかも知れない。米国農務省は11月に、2023/24年度の収穫量が、早生及び中生品種が750万箱、バレンシア種が1,300万箱の合計2,050万箱(40.8kg/箱)にとどまると予測した。この数字は低いが、2つのハリケーンの影響を受けた前回の収穫量よりは30%多い。

ハリケーンのほか、フロリダ州ではほぼ100%の果樹でカンキツグリーンング病が観察されており、生産性が大幅に低下し、生産コストが上昇し、生産活動の魅力が低下している。2023/24年度の果樹当たりの生産性は、サンパウロ州と三角地帯の平均が1ヘクタール当たり1.83箱であると基金によって予測されているのに対し、フロリダ州では1ヘクタール当たり0.49箱(40.8kg/箱)と推定されている。

ペルー マンダリンの輸出が急激に減少

EUROFRUIT 2023年11月30日

ペルーは、2023年1月から10月の間に1億3,700万米ドル相当の11万9,099トンのマンダリンを輸出した。フレッシュフルーツペルー社(青果物情報会社)によると、これは前年同期に比べて数量で44%、金額で40%の減少に相当する。2023年は、前半のエルニーニョによる高温のため、果実の色と品質に影響が出た。

ペルーの最大の輸出市場である米国への出荷はさらに急激に減少し、数量で60%、金額で58%減少して、6,400万米ドル相当の5万3,413トンでシーズンを終えた。2022年にペルーにとって2番目に大きな市場だった英国は、1,200万米ドル相当の1万1,051トンで3位に後退した。これは、昨年と比較して数量で36%、金額で26%の減少に相当する。それと対照的に、欧州向けの出荷は大幅に増加した。10月までに2,100万米ドル相当のマンダリン1万7,648トンを輸出し、数量で20%、金額で51%増加して第2位に浮上した。

ペルーの柑橘類の輸出が縮小したのは今年で2年目である。何年にもわたる目覚ましい成長の後、2022年の輸出量が10年以上ぶりに減少した。柑橘類協会(ProCitrus)のセルジオ・デル・カステージョ会長によると、2020年末に税制上の優遇措置を制限する新しい農業法が導入されたことで、新植への投資が失速した。このことが、エルニーニョ現象の悪影響と相まって、輸出の伸びを妨げている。同氏はまた、過去2年間の生産、ポストハーベスト及び輸出のコスト上昇が、このセクターの収益性に深刻な打撃を与え、ペルーが世界の舞台で競争力を維持することを困難にしていると指摘した。

執筆者: マウラ・マクスウェル